

## 福井県におけるウミミズカメムシの初記録

渡部晃平<sup>\*1</sup>・藤野勇馬<sup>2</sup>・野一色麻人<sup>2</sup>

要旨：福井県初記録となるウミミズカメムシを県内の複数地点の海岸より発見した。

Kohei WATANABE <sup>\*1</sup>, Yuuma FUJINO <sup>2</sup>, Asato NOISHIKI <sup>2</sup>. 2024. New distributional record of *Speovelia maritima* Esaki, 1929 (Insecta: Heteroptera: Mesoveliidae) in Fukui Prefecture, Honshu, Japan. *Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center)* 27:49-51.

**Key words:** Gerromorpha, Hemiptera, Mesoveliinae, semiaquatic bugs, water treaders

ウミミズカメムシ *Speovelia maritima* Esaki, 1929 は半翅目ミズカメムシ科の一種である。本科の中では珍しく海浜性の種で、海蝕洞、消波ブロック間、礫浜の岩の隙間や礫間などに生息する (林 2007; 林・宮本 2018)。日本固有種で、北海道、本州、伊豆諸島 (八丈島、御蔵島、三宅島)、隠岐諸島、四国、九州、五島列島 (中通島)、沖縄本島、粟国島、宮古島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島から記録されているほか (青木 1954; 林・山本 2011; 青柳 2017; 2020; 林・宮本 2018; 中村・秋山 2021; 松尾・伊藤 2023)、小笠原諸島 (南硫黄島) から本種の幼虫と思われる個体が採集されている (森ほか 2017)。

筆者らは、福井県初記録となる本種を採集しているので、ここに報告する。

最近、本種に類似するナギサミズカメムシ *Nagisavelia hikarui* Watanabe, Nakajima et Hayashi,

2023 が日本から記載された (Watanabe et al. 2023)。福井県で採集した成虫は、複眼が退化傾向ではないこと、頭部の縦横比、脚や触角の棘の有無、触角が体長よりも長いことなどにより、ウミミズカメムシと同定した。同所的に採集された幼虫においても、体長が大きく複眼が退化傾向ではないことが確認されたため、ウミミズカメムシであると判断した。

福井県敦賀市鞠山, 1♀, 12-V-2020, 藤野勇馬 撮影; 敦賀市二村, 1♀, 3-XI-2020, 藤野勇馬 撮影; 坂井市三国町崎, 1♀, 1幼虫, 23-VIII-2023, 渡部晃平採集・保管 (図1-2); 敦賀市大比田, 3♂, 1♀, 15-IX-2023, 藤野勇馬・野一色麻人 採集・1♂を野一色保管, 2♂1♀を福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI 35268-35270)。



図1-2 福井県産ウミミズカメムシ (1, 成虫; 2, 幼虫)。

\* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) E-mail: koutarouhigasi@yahoo.co.jp

1 石川県ふれあい昆虫館 〒920-2113 石川県白山市八幡町戊3番地

2 NPO 法人中池見ねっと 〒914-0005 福井県敦賀市樫曲7-25

敦賀市鞠山の産地は礫浜で、岩盤の割れ目に直径 20 cm 程度の石が堆積していた。岩盤が露出するまで石を掘り進め、岩盤の表面を走り回る本種を撮影した。この場所では同所的にナギサハネカクシ属の一種、ウミセミズハネカクシ属の一種、オオウスイロヘソカドガイ、ハマシイノミガイ、ナギサノシタタリ、ナギサヒモムシなどが見られた。

敦賀市二村 (図 4) では消波ブロックの隙間で本種の生息を確認した。隙間の底には砂の上に直径 10~20 cm 程度の石が堆積しており、ひとつずつ石をめくりながら石の裏にいる本種を撮影した。この場所では同所的にニホンハマワラジムシ、キントニイロカワザンショウ、ナギサノシタタリ、ナギサヒモムシなどが見られた。

坂井市三国町崎 (図 5) は礫浜で、直径 20 cm 程度の石が堆積していた。この石を掘り進めると堆積した石は数 cm 程度に小さくなり、海水で湿った石

の隙間を走り回る本種を採集した。

敦賀市大比田 (図 3) では道路下の暗渠内において本種の生息を確認した。暗渠内には上流側から淡水の流れ込みがあるが、下流側の出口は汀線から 10 m ほど離れており、流れ込みの下流は海面と直接的には接続していなかった。暗渠下流側の出口付近には直径 10 cm 程度の石が堆積しており、この石をめくりあげ表面をくまなく視認することで石の表面にいる本種を採集した。この場所では同所的にノトチョウチンワラジムシ、ハナビロハマワラジムシ、ヒイロワラジムシ属の一種、イソカニムシ、オオウスイロヘソカドガイ、キントニイロカワザンショウなどが見られた。また、夜間の観察では本種が暗渠内の水面近くの壁面を徘徊する様子が見られた。

また、藤野と野一色は敦賀市横浜の礫浜や越前町厨の消波ブロックのすき間でも本種と思われる個体を目撃している。



図 3-5 福井県産ウミミズカメムシの生息環境 (3, 敦賀市大比田; 4, 敦賀市二村; 5, 坂井市三国町崎)。

## 引用文献

- 青木忠雄. 1954. 海蝕洞にすむウミミズカメムシ. 新昆虫 7 (9): 14-15.
- 青柳 克. 2017. 石垣島ならびに粟国島（沖縄諸島）からウミミズカメムシの新産地記録. *Rostria* (61): 29-30.
- 青柳 克. 2020. 波照間島および与那国島からウミミズカメムシの記録. *Rostria* (65): 96-97.
- 林 成多. 2007. 島根半島におけるウミミズカメムシの生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告 (10): 115-118.
- 林 正美・宮本正一. 2018. 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三（編）, 日本産水生昆虫一科・属・種への検索 第二版. 東海大学出版会, 平塚市. pp. 329-427.
- 林 正美・山本亜生. 2011. ウミミズカメムシの新産地. *Rostria* (53): 78.
- 松尾照男・伊藤玲央. 2023. ウミミズカメムシ長崎県本土の記録. 月刊むし, (624): 44-45.
- 森 英章・苅部治紀・岸本年郎. 2017. 南硫黄島の昆虫相とその特殊性. 小笠原研究 (44): 251-288.
- 中村 涼・秋山 允. 2021. 西表島におけるウミミズカメムシの新分布記録. *Rostria* (66): 84-85.
- Watanabe, K., J. Nakajima, & M. Hayashi. 2023. *Nagisavelia hikarui*, a new genus and species of Mesoveliinae (Hemiptera: Heteroptera: Mesoveliidae) inhabiting shingle beaches in Japan. *Zootaxa* 5353 (5): 468-478.